

# 岡山県立博物館「吉備の国ジュニア歴史スクール」の紹介

—岡山県立博物館—

## 1 吉備の国ジュニア歴史スクールについて

吉備の国ジュニア歴史スクールは、小学校高学年を対象にした歴史スクールで、岡山県の歴史と文化に関わる児童向けテーマを設定し、2日間の校外での学習と学校でのまとめを含めた博物館と学校が連携して行う3日間のカリキュラムです。

まず第1日は学芸員が添乗したバスに乗り、テーマに関わる文化財を見学します。第2日は、県立博物館で、1日目の成果を生かしながら、学芸員からスライドや実物資料を用いた授業を受け、郷土の歴史に対する理解を深めます。さらに博物館でのマナー学習、展示室・バックヤードを見学して文化財や博物館へ親む気持ちを養います。そして第3日は各学校で学習の成果をまとめます。なお、平成24年度からは、見学のみではなく、できるだけ児童が参加し、体験できる内容を実施しています。

## 2 運営について

主催は、岡山県立博物館教育普及事業実行委員会、岡山県教育委員会、岡山県立博物館及び(財)岡山県教育職員互助組合で、事業に参加する小学校がある市町村教育委員会には共催をお願いしています。事業の運営費は、(財)岡山県教育職員互助組合からの補助を充てています。

参加校の選定は、県立博物館が設定したテーマと企画内容を、一日の行程として実施可能であることや、参加する市町村に偏りが無いこと等を考慮して、まず市町村を決定し、その後、市町村教育委員会にご協力いただいて小学校を決定します。また、この事業は、ふだん博物館に行くことが難しい地域の子供達に博物館を体験してもらおうこともねらいの一つにしており、岡山市や倉敷市以外の市町村の学校をできるだけ優先しています。

- 過去3年間の実施コース
- ・平成22年度
    - 備前焼コース
    - い草コース
    - 桃太郎コース
  - ・平成23年度
    - 備前刀コース
    - 豊臣秀吉と岡山コース
    - 法然上人と岡山コース
  - ・平成24年度
    - 江戸時代の教育体験コース
    - 戦国武将と山城体験コース

## 3 学校の取り組みについて(平成24年度の例をもとに)

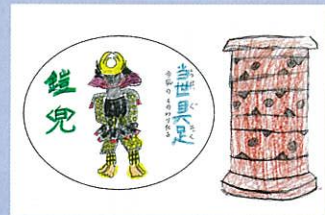
参加する小学校は、歴史スクールを総合的学習の時間の一部に組み込んでいるケースが多いようです。赤磐市立城南小学校は、地元にある山城茶臼山城について調べました。ガイドブックを作って広く紹介することを目標にした総合的学習の時間の一端で「戦国武将と山城体験コース」に参加しました。第1日に備前中山城に登って山城の仕組みを現地で学習し、第2日の博物館では山城の仕組みを復習するとともに身近にある山城について学び、本物のよいを着てみたり、刀を持ったりしてその質感や重さを体験しました。また岡山城も見学しました。先生方の研究会も兼ねて実施された第3日は、児童がグループごとにテーマを設け、まとめたことを発表しました。備前中山城・岡山城・茶臼山城を比較したグループや戦国時代の茶臼山城について、よいを着た体験を踏まえて発表したグループなど、歴史スクールでの体験を上手く生かした発表がみられました。なお、第3日のまとめの方法は学校によって様々で、歴史新聞を作ったり、パワーポイントを使って発表したりするだけでなく、劇や人形劇にするケースもあります。また、保護者や地域の人たちにも見てもらう学習発表会の日に当てる学校もありました。



江戸時代の教育体験コース  
第1日 旧閑谷学校 講堂学習



戦国武将と山城体験コース  
第2日 館内授業



第2日 児童のワークシートから



江戸時代の教育体験コース  
第3日 人形劇にして発表

## 4 まとめ

小学校高学年の段階に、学校を離れて本物の文化財を見て、体験して、学芸員から岡山県の歴史の面白さや、文化財の大切さを学ぶことは、児童たちにとって貴重な体験となっていることを、参加した子ども達の表情や、協力いただいた先生方のお話から実感しています。一日の行程で県立博物館の利用が困難な離れた市町村の場合の実施方法など課題はありますが、小学校の学習指導要領でもふれられている博物館や地域の資料館と学校の連携が図られている例の一つとなる事業だと考えています。

岡山県立博物館 主幹 竹原 伸之

## 編集後記

会報43号をお届けします。今号は加盟館の方々からの情報を十分に盛り込んだ内容となっております。Facebookの活用や、館同士、または学校・地域との連携事業など、各館の取り組みについて貴重な情報をご提供いただきました。ページ数の関係により、掲載できる内容に限りのある会報ですが、今後も加盟館、学芸員の皆様の取り組みについて役立つ情報をご紹介していければと思います。  
(岡山県博物館協議会 事務局員 大山真季)

岡山県博物館協議会会報

# 岡山の博物館

No.43 平成25年1月発行

編集・発行 岡山県博物館協議会

会長 鍵岡 正謹

事務局

〒700-0814 岡山市北区天神町8-48

岡山県立美術館内

TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648

# 岡山の博物館

岡山県博物館協議会会報 No.43

平成25年1月

## CONTENTS

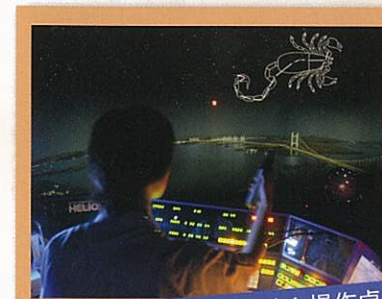
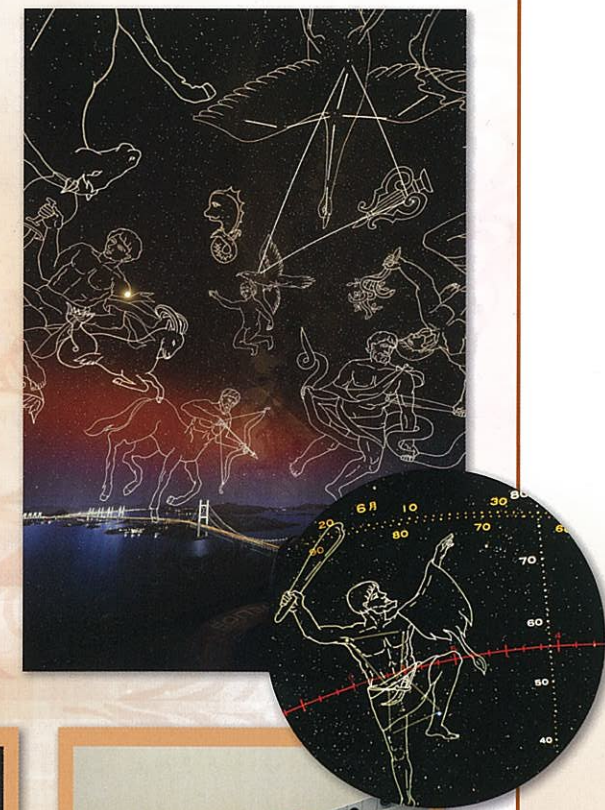
- P1 …… 倉敷科学センター「プラネタリウムで楽しむ星空散歩」
- P2 …… 館長随想「備北の一角から美術文化の発信」(新見美術館 館長 橋本 吉弘)
- P3 …… 加盟館職員からのたより(岡山県備前陶芸美術館)
- P4~P5 …… 博物館と美術館の連携事業と地域の協力(瀬戸内市立美術館)
- P6 …… 平成24年度第1回研修会「文化財保存環境の基本」
- P7 …… Facebookの活用について(奈義町現代美術館)
- P8 …… 気になる情報コーナー(岡山県立博物館)

## わが館のイチ押し

### 倉敷科学センター 「プラネタリウムで楽しむ星空散歩」

倉敷科学センターは平成25年4月で開館20周年を迎えます。倉敷市の生涯学習の中核施設ライフパーク倉敷の一施設としてオープンした、理工系科学館施設です。次代を担う青少年に科学技術の正しい認識、普及、啓発を図るとともに、宇宙への限りない夢と豊かな感性や想像力を育み、地球環境を守り育てる心を培うことを目的として設立されました。中でも人気を博しているのは、ドーム直径21メートルという中国地方最大級のプラネタリウムです。

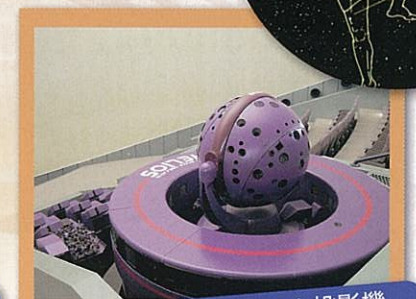
星座は1年かけてゆっくり移ろい、月や惑星の見え方も日々変化するため、星空は毎日違った表情を私たちにを見せてくれています。プラネタリウムをご覧になるみなさんが、その日の夜空を楽しめるよう、当夜21時の夜空を忠実に再現し、ご案内することが我々スタッフのこだわりです。毎日違う星空を紹介するため、解説台本は一切なし。解説者の個性を楽しむのも魅力です。星座の探し方からおすすめ天文現象まで、ドームの下での星空散歩をお楽しみください。



プラネタリウム操作卓



プラネタリウム投影風景



プラネタリウム投影機

# 館長随想

## 「備北の一角から美術文化の発信」

新見美術館 館長  
橋本 吉弘



新見は京都東寺領の荘園として治定されていた、歴史ある所です。

新見美術館は、岡山県の西北部に位置し、JR伯備線、姫新線、芸備線の要衝である「新見駅」のすぐ裏の高台にあります。郷土出身の故横内正弘氏から寄贈を受けたコレクション300点余りを軸に、地域文化の向上を目指し平成2年11月に開館しました。新見庄の名主屋敷跡に、中世をイメージした入母屋作り2階建ての美術館が建てられ、館内の喫茶コーナーから見下ろす町並み風景と、春夏秋冬に変化する山並みの眺望は来館者から好評をいただいています。

当館の収蔵品は、日本画、洋画、版画、水彩画、彫刻、工芸、書、写真など1,100点におよび、特に文人画家富岡鉄斎の作品80点は高い評価を受けています。日本画では、円山応挙、呉春、谷文晁をはじめ、近代では、横山大観、竹内栖鳳、川合玉堂、前田青邨、小野竹喬、現代では平山郁夫、田淵俊夫など、明治以降の流れをたどることができる内容となっております。また、郷土ゆかりの洋画家や工芸家の作品なども収集しており順次展示しています。

第1、第2展示室は企画展・特別企画展として、第3室は、新見庄展示コーナーとして京都東寺領地であった新見庄史料を展示しています。このコーナーでは、東寺百合文書から発見された約460年前の農村女性の手紙、国宝「たまがき書状」(レプリカ)などを展示しており、郷土の歴史を理解する場として、当時を垣間見ることが出来ます。

新見市は、「まなび広場にいみ大ホール」緞帳の作成監修を平山郁夫画伯に依頼したことを機に、東京藝術大学の協力を戴き、平成16年から田淵俊夫・宮廻正明両画伯と同大学

院生を招聘し絵画教室を毎年行っており、今年も引き続き行われる予定です。

また、絵画購入基金を設置し、一昨年、今年と日本画を購入するなど近年文化面に特に力を入れており、当館=日本画というイメージが定着されつつあります。

今年度の秋季特別展を箱根・芦ノ湖 成川美術館協力により平松礼二展を開催しましたが、その会期中の昨年11月中旬、平松画伯からFAXが入り、展示中の絵「モネの池・緑の詩」50号を寄贈するとありました。当館の実情を勘案されこのようなご厚意を戴き驚きとともに有難く頂戴いたしました。さらに、郷土の洋画家故藤井哲氏の遺産寄贈による美術振興基金の創設もあり、今年度からこれを活かす事業を進めています。

美術館を身近に感じていただけるよう、子供たちから大人までを対象とした展示等を企画し、美術教育の振興・発展、文化水準の向上に努め、入館目標に沿うよう努力し企画運営につとめていきたいと考えています。近年良い企画展にも恵まれ、そのうえ新たな試みとして民放テレビ局の共催や企業の特別協賛など、県内外へのPRが功を奏し来館者が微増の傾向にあります。

今年、現在開催している「近現代日本陶芸の巨匠たち」と「日本画と洋画」「郷土作家シリーズ 高橋紀代子展」、平成25年度は、新見市出身(ドイツで活躍中の郷土作家)で平成23年度岡山県新進美術家育成「I氏賞」大賞受賞の加藤竜展などを企画し皆様にご覧いただく予定です。

県西北部の一角に有りますが、これからも多彩な企画展を開催し、来館者の皆様に喜んで頂けるよう職員一同頑張っており、今後とも皆様のご支援、ご指導をよろしくお願い致します。



平松礼二画伯から寄贈の「モネの池・緑の詩」



新見美術館

## 加盟館からの便り

### 岡山県備前陶芸美術館

作り手の想いを伝える館へ

備前市伊部は平安時代の終りから約800年に渡り、備前焼を作り続けている焼き物の里です。岡山県備前陶芸美術館はその伊部の中心にある日本で唯一の備前焼専門の美術館です。

開館から35周年を迎えたこの美術館が全国的にも珍しいところは、備前焼作家や窯元により作られた美術館ということです。

開館当時の伊部は昭和42年に藤原啓が金重陶陽に続く2人目の人間国宝へと認定され、昭和47年には新幹線が岡山まで開通し、訪れる観光客が飛躍的に増加し始め、業界としても大きな盛り上がりを見せていました。

しかしながらこうした観光客をもてなす施設が当時の伊部にはなく、備前焼のさらなる発展の為に観光の中心となる施設が必要だという声が作家・窯元から上がりました。

こうして昭和48年に岡山県備前焼陶友会の設立、そして陶友会員の寄付により昭和52年に岡山県備前陶芸美術館(当時の名称は岡山県備前陶芸会館)が開館しました。

この美術館の運営方法はとてもユニークで、展示企画は美術館の委員である備前焼の作家・窯元の代表が話し合いによって決めています。

特に平成19年度から開催している、備前焼の旬な素材を取り上げた企画展については、伊部を訪れる観光客の方々に自分達が何を見せたいのか、より

備前焼を好きになってもらうにはどうすればいいのか、といった作り手ならではの視点から様々なアイデアが出されます。

中には意表をつきすぎて、そのままでは展示会としては成立しづらいものもあります。そうしたアイデアの面白いところを活かしつつ、お客様楽しんでいただくために展示方法や説明などを考えるのが学芸員としての頑張りどころです。

そこで作家にいろいろな質問をしますが、ここで聞けるお話が大変面白い。作品の制作にまつわるエピソードや技法について、非常に具体的でしかも今までにない事への挑戦など、大変勉強になります。



備前焼作家による作品紹介

このお話を来館者の方にも聞いてもらいたいと考え、特別展の中で作家によるギャラリートークを開催したところ、大変好評でした。

備前焼は現在も400名近い数の作家が活動しています。毎日のようにどこかの煙突から煙が上がり、新しい備前焼が生み出されています。今後もそうした作品を展示し、作品に込められた作り手の想いや情熱についても紹介していきたいと思えます。

備前焼作家・窯元と共に成長する岡山県備前陶芸美術館、お近くにお寄りの際は是非一度ご来館下さい。

岡山県備前陶芸美術館 学芸員 上西 高登



岡山県備前陶芸美術館外観



【博物館展示室観覧風景（戦国BASARA展）】



【博物館展示室観覧風景（撮影する来場者）】



【美術館原画展観覧風景】



【美術館公募展展示風景（イラスト以外にもガラス作品、針金作品、木製品などさまざまな素材を使用したの応募がありました。）】

### はじめに

平成の大合併で誕生した瀬戸内市は、旧牛窓町、邑久町、長船町から構成されています。昭和58年に開館した備前長船博物館は、平成16年のリニューアルに伴い備前長船刀剣博物館と名称を改め、備前おさふね刀剣の里の中心的役割を果たしています。また近年では、工房を使用して新たに美術刀剣類の製作をしようとする刀工の美術刀剣刀匠技術保存研修会会場にもなっています。

平成22年に開館した瀬戸内市立美術館は、旧牛窓町のときにオーブ園にアトリエを置き100歳まで活躍された佐竹徳画伯から寄贈を受けた自身の作品と親交の深かった金山平三画伯の作品、合わせて80点が収蔵品の核になっています。開館以来、佐竹画伯の作品展示と顕彰を行いながら郷土にゆかりある作家の作品や洋画、版画、現代芸術作品などの企画展示を行っています。

両館の所在地は、市の南北両端であり、直線距離で12km、直接結ぶ公共交通手段も無く、自家用車で30分以上かかります。

### 博物館と美術館の連携

瀬戸内市立美術館の開館に当たり、日本刀を常設展示する博物館としての知名度がある備前長船刀剣博物

館から新設の美術館へ来場者を誘導し、多くの人に知ってもらおうと、両館で連携企画事業開催の協議をしたこともありましたが、予算面などの障害から当面の間は相互に入館料の割引を行うことに留まりました。

平成23年度から博物館を中心として、日本刀と日本を代表するサブカルチャーであるアニメ・ゲームの世界と融合した企画展示で「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の国庫補助事業の交付決定を受けました。

### 博物館展示風景（戦国BASARA展）

初年度にゲーム・テレビアニメなどで人気のある「戦国BASARA」に登場する戦国武将に関係する武器・武具などをキャラクターパネルとあわせて展示する企画を計画したところ、44日間の会期中に2万人を超える来場者がありました。これは、出品者の協力のもと展示物を写真撮影可能にすることができたことで撮影されたものをネット上（ブログやツイッターなど）で紹介され短時間に広範囲に情報が伝播された、現代版口コミの効果が大きかったようです。

美術館では同時期にギャラリーを使用して行った「戦国BASARA」に登場するキャラクターのイメージ原画の展示を行ったところJR長船駅と2館の移動に無料シャトル

バスを走らせた事もあって推計で4000人を超える来場者がありました。



【無料シャトルバスアート】

翌年度は、映画やテレビアニメで海外にも知られている「エヴァンゲリオン」シリーズに登場する武器・武具などを現代刀匠たちの手で制作した作品とキャラクターパネルなどを展示する企画が計画されました。前年以上の賑わいを見せ66日間の会期中に4万人を超える来場者を数えました。

美術館では、「日本刀」をテーマにした全国公募展を行い会期をほぼ合わせて入賞作品だけでなく応募作品すべての展示を行いました。

博物館での展示内容は、刀剣が主たる資料になるため、美術館での展示物を日本刀に関連したものにすることで統一感のある関連した企画内容が図れると考え、公募展のテーマを博物館の展示内容にしました。

### 地域との連携

博物館を中心として、市長をはじめとした市関係部署職員、市観光協会、市商工会などで集まり「どう盛り上げるか」、「どう宣伝するか」など意見を交わす会議を幾度も行いました。その中で協力を頼める団体へそれぞれ声掛けを行い広げました。

博物館の展示資料収集に日本美術刀剣保存協会岡山県支部や地元愛刀家の協力、ロンギヌスの槍をはじめとした展示作品の製作に全日本刀匠会の協力を得ることができました。

博物館では、ファーストフードなどの飲食コーナーを地元店主たちの協力で開かれ、より多くの賑わいにつながりました。

無料シャトルバスを飾る絵手紙作品を公民館グループが作成してくれました。

普段、博物館や美術館とのつながりの無いグループ、団体の協力を得ることができ、より幅の広い宣伝効果が得られました。また、これをきっかけにより多くの地域住民に関心を持ってもらうことができたのではないかと考えています。

瀬戸内市立美術館 主幹(学芸員) 大谷博志

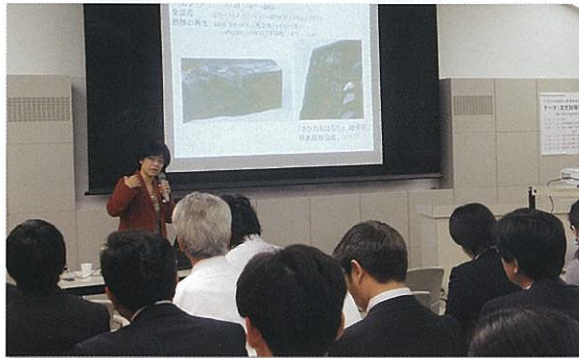
# 「文化財保存環境の基本」

日時：平成24年10月26日(金) 10:00～16:00

場所：岡山県立美術館 講義室

講師：吉田直人氏、佐野千絵氏、佐藤嘉則氏(東京文化財研究所)

今回は「文化財保存環境の基本」をテーマに5部構成で研修会を行い、賛助会員を含む59名が参加しました。第1部では「保存環境総論」、第2部から第5部は各論として「温湿度」、「空気環境」、「光・照明」、「生物被害」について各先生方にお話しいただきました。以下、研修会に参加しての感想をお寄せいただいております。



## 研修に参加しての感想

今回の岡博協研修会は東京文化財研究所による資料保存地域研修でした。これは同研究所が行っている「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」の地方出張版といえるものです。本研修は毎年東京で2週間に渡って行われるため、日程や人員配置などの都合から、参加したくともできない場合も多いように思われます。そのため、今回のように各地域にいながらにして研修を受けられるのは実にありがたいことです。

資料保存はまさに学芸業務の根幹にかかわる問題だけに、今回の研修には強い関心と期待を抱いていました。それは他の加盟館の方々にとっても同様で、出席者も多く、質疑応答も活発なものとなっていました。

研修は保存環境総論から始まり、温湿度、空気環境、光・照明、生物被害の各論と充実した内容の講義を受けることができ、たいへん参考になりました。研修では理想的な保存/展示環境や設備例が提示される場面もありましたが、実際にはそうした条件を全て満たす施設の方が稀でしょう。また個々の施設によっても環境や設備、取り扱い資料は異なるので、「〇〇してさえおけばよい」という唯一の答えがあるわけでもありません。重要なのは「bestを知り betterを選ぶ」こと。それぞれに異なる環境、限られた条件下で、資料を劣化させる様々な要因に対して優先度を定め、「まず」「何を」「どこまで」対処するのか。一歩ずつ地道に改善していくほかありません。

私たちの「岡山空襲 展示室」は平成24年10月にオープンしたばかりで、おそらく県下で最も若い展示施設です。準備段階で過去の多くの事例を参照しながら、「資料に優しく、見やすい」展示ができるよう照明や展示ケースなどの設備を整えましたが、今回の研修を踏まえ、よりよい保存・展示のあり方をさらに検討していきたいと思っております。

末筆ながら、貴重な研修の機会を設けてくださった岡山県博物館協議会事務局ならびに講師を務められた東京文化財研究所の皆様にお礼申し上げます。

岡山空襲 展示室(岡山市福祉援護課) 木村 崇史

# facebookの活用

フェイスブックは2004年、ハーバード大学の学生だった一人の青年・ザッカーバーグからその歴史が始まる。当初は学生同士の交流を深めるためのコンテンツとして歩み始めたフェイスブックが、今では巨額のお金を動かし、政治に影響を与え、そしてその広がりの中で数々の物語が生まれ、その物語は映画にもなった。それだけ大きな物語を抱えたフェイスブックだが、操作が簡単で、身近にあるのが魅力の一つと言えるだろう。無限に広がった活用法の中で、美術館を運営していく上で、どのように私たちはフェイスブックを有効に活用していけばいいのだろうか。

奈義町現代美術館がフェイスブックを活用し始めたのは2012年の5月からで、まだまだ未知数な部分は多い。まだ始めて浅いながらも感じた利点は、誰が見たか、どれだけの人が見たか、どんなふう感じているか、それらがすぐに数字や言葉でわかるということだろう。素早い反応は展覧会中の構成の修正に役立つ。あとは写真の効果は絶大で、今どんな展覧会が行われているか、奈義でいえば今どんな天気か、どんな自然の景色が広がっているかなどがタイムリーに伝えられることだ。しかし展覧会の写真などをアップする際に気をつけることは、展覧会全部を見せすぎないということだ。このことはある閲覧者の方から指摘されてそれ以降気をつけるようにしていることで、閲覧者の意見は貴

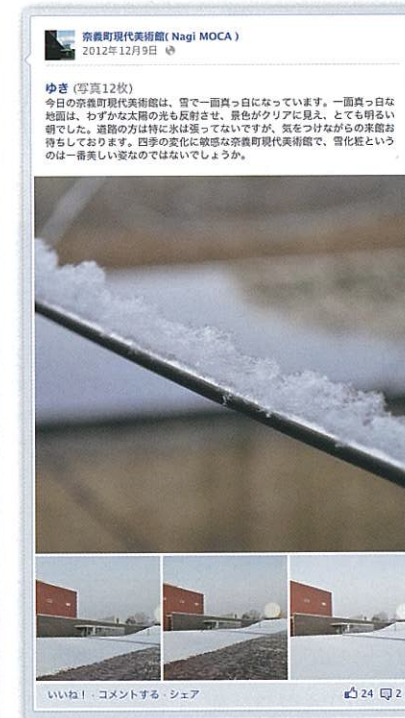
重な意見で、今後の活用にもとても参考になっている。PR活用という点では、手渡しでの情報発信という面ではいつだって不利な立場に立たされる地方の美術館にとって、これほど有効な手段はないのではないかと。どれだけの閲覧者が実際の来館に繋がっているかは未知数なところがあるが、「知ってもらう」だけでも意味はあるだろう。

しかし危険な部分が多いのもまた事実である。公的な施設でもある美術館の情報が簡単な操作で全世界に流れていってしまうという怖さは常に付きまとい、「炎上」という言葉にもあるように、情報の出し方、言葉の選び方は慎重にしなければいけないなど、不安な点は確かに多い。また更新の簡易さから何度でも情報を更新してしまいがちになるが、次から次へと目まぐるしく更新してしまうと、すぐに埋没してしまう情報も増えていき、情報の出し方やタイミングというのでも考えなければならぬだろう。

フェイスブックの活用では利点は不安要素にもなる。しかしその使いかたさえ誤らなければ、非常に有効なPRの手段に成り得るだろう。他の美術館のページを見ていて気付いたことは、地方の美術館ほど積極的に情報を更新しているということだった。未知数ではあるが、地方の美術館の来館者増につながる、一つの「手段」としては有効だと、現時点では感じる。 奈義町現代美術館 学芸員 遠山 健一郎



●「展覧会のお知らせ」をアップする。展覧会ごとに簡単な内容、期間、関連イベントがある場合はイベントの文字内容を載せる。画像はチラシをスキャンしたものを載せる。



●美術館・近辺の自然状況をアップする。東北にある奈義町現代美術館の魅力の一つに、「自然に囲まれた美術館」というものがある。この要素をPRするために、気候、四季による自然の変化、それに伴う常設展示の風景を文字と写真で載せる。



●行われている企画展内容をアップする。行われている企画展について、お客さんの反応や作品の解説などの文字情報を載せる。写真をアップする際に注意することは、あまり見せすぎないということ。Facebookを見て、実際に足を運んでみたいと思わせるように、写真も文字情報を制限する。